

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 Gifu-DO(ぎふうど) 農泊推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農山村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内4176)

E-mail : c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,400千円 (前年度予算額) 19,400千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	19,400	0	0	0	0	0	19,400	0
要求額	16,400	0	0	0	0	0	16,400	0
決定額	16,400	0	0	0	0	0	16,400	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

新型コロナウイルス感染症対策により、テレワークやリモートワークといった新しい働き方が普及し、働く場所を自由に選択できる人が増えてきている。

また、田園回帰の流れをうけ、都市住民が農村部で農業体験や農村ボランティアを行う「地域課題解決型」のワーケーションが注目を集めている。

地域課題型のワーケーションは、参加者の満足度も高くリピート率も高いため、農的関係人口の増加や、移住にもつながる取組みと考えられているが、ワーケーションとしての需要は限定的である。そこで、自然や文化を体験できる農林漁業体験と結び付け、岐阜県らしい魅力的な農泊プランを企画し、一体的に展開することで、新たな需要を拡大する必要がある。

(2) 事業内容

- 「Gifu-DO」ブランドを広く展開していくための体制を整備：8,000千円
 - ・「Discover Gifu」との連携や、国内外の観光事業者を対象としたファムトリップの実施などを通じて、「Gifu-DO」ブランドの展開に向けた体制を整備する。
 - ・Gifu-DO農泊の実施体制づくりに向け、作成した農泊プランの調整や新規プランの開発、運営に対する助言・指導など、実施地域への支援を行う。
- 「Gifu-DO」ブランドについて、全国的なイベント等を通じた情報発信を実施：8,400千円
 - ・「Gifu-DO」ブランドの全面展開に向けて、全国的なイベント等において情報発信を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

活動範囲が県全域にわたる施策であるため、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	プロポーザル評価会議
旅費	260	
需用費	1,000	消耗品費：フェア用PRグッズ
会議費	8	プロポーザル評価会議
委託料	14,100	「GIFU-DO」ブランドPR 「GIFU-DO農泊」実施地域の育成・支援
使用料及び賃借料	1,000	「GIFU-DO」ブランドPRのためのイベント出展
合計	16,400	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

「ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）」

(2) 国・他県の状況

近隣県（三重県、富山県、福井県、石川県）で「農泊」に着眼した農村の活性化に向けた取組みを実施。

(3) 後年度の財政負担

ぎふ農業活性化基本計画の目標年R12年度に向けて「GIFU-DO農泊」実施のための体制整備とブランド化を集中的に実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

県全体の実践者による取組みを推進するための事業であるため妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・県内の農林漁業体験と、農村の持続的発展に資するボランティアを組み合わせた、新しい農泊プランを「GIFU-D0農泊」としてブランド化し、R7年度に一体的に情報発信と販売を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R6年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①ワーケーションに取り組む施設数	-	54	40	50	60	90%
②農林漁業体験者数	-	276	290	300	300	92%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	セミオーダー型のワーケーションプランを実施し、県内各地で家族・個人向けのワーケーションプランを販売し、合計200泊分のモデルプランを販売し、ワーケーションに取り組む農泊施設の振興を図った。 週末田舎人ワーケーションプランとして、農家体験プランを合計26泊、「ぎふの田舎応援隊」の活動を合わせたプランを合計30泊実施し、地域課題解決型のワーケーションプランの理解を深めた。
	指標① 目標：60施設 実績：39施設 達成率：65.0%
	指標② 目標：300千人 実績：178千人 達成率：59.3 %
令和5年度	「ぎふの農村ならでは」の体験メニューと地域貢献を目的とした滞在型プログラム（「GIFU-D0農泊」）を10プラン造成した。
	指標① 目標：60施設 実績：49施設 達成率：81.7%
	指標② 目標：300千人 実績：267千人 達成率：89.0 %
令和6年度	造成したプランについて、リハーサルやモデルツアーや計19回行い、販売開始に向けた準備を行った。
	指標① 目標：60施設 実績：54施設 達成率：90.0%
	指標② 目標：300千人 実績：276千人 達成率：92.0 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	新型コロナウイルスによる行動制限をきっかけにテレワークなどの新たな働き方が普及していきており、それに対応したワーケーション対応施設も農村地域で増加している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価) 2	農村でのワーケーションという新たなニーズの開発にはつながっているが、ワーケーションのニーズがあまり大きくないため、成果は限定的である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている
(評価) 2	ワーケーションという新たなニーズと、都市住民の農村への興味や関心を結び付けた地域課題解決型のワーケーションのプランを開発することで、岐阜ならではのワーケーションを「GIFU-DO農泊」として展開するための体制整備を図ることができた。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

コロナ禍を経て人々の活動が活発化し、インバウンド需要も拡大している一方で、農村の暮らしをまるごと体験できる「農林漁業体験」や、それらを滞在型としてパッケージ化した「農泊」の認知度は依然として低く、十分に普及しているとは言えない。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

農林漁業体験を体系化した「G I F U - D O」ブランドと農泊を連携させ、一体的な情報発信や観光業界への提案を行うことで、多様な主体が農泊に取り組みやすい環境を整備し、それらの農村体験をパッケージ化した「GIFU-DO」農泊の取り組みを拡大していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	GIFU-DO農泊推進事業費補助金
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	GIFU-DO農泊に向けた推進体制の整備と並行し、GIFU-DOの運営やプロモーションを進める。